

- 問1 奈良時代の班田収授法における、口分田の配分や管理の仕組みについて述べた文として、正しいものはどれですか。（2022年 熊本県公立入試 類似）
1. 戸籍に登録された6歳以上の男女すべてに与えられ、その面積は性別や身分によって違いがあった。
 2. 土地の不足を解消するため、新しく開墾した土地であれば、返還せずに永久に私有することが認められた。
 3. 口分田は一度与えられると、本人が死亡した後も子孫が代々受け継いで耕作することができた。
 4. 税の負担を公平にするため、身分に関わらずすべての国民に全く同じ面積の土地が与えられた。
- 問2 律令制度における兵役の一つである「防人」について、その実態を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2016年 三重公立入試 類似）
1. 九州北部の沿岸警備を目的とし、主に東国の農民が3年の任期で派遣された。
 2. 都の宮中の警備を目的とし、全国の農民が1年の任期で交互に派遣された。
 3. 東北地方の蝦夷の反乱を抑えるため、志願した農民が永住を前提に派遣された。
 4. 外国船の来航に備えるため、江戸幕府が西国の諸大名に命じて組織させた。
- 問3 奈良時代の都であった平城京から、各地の地名や産物名が記された木簡が大量に発見されていることは、当時の社会についてどのような事実を物語っていますか。（2015年 佐賀公立入試 類似）
1. 律令国家が全国的な徴税体系を整え、地方の特産物を都に集約させていたこと
 2. 地方の農民が土地の有力者に対して、収穫した米を年貢として納めていたこと
 3. 各地の関所で通行料を徴収し、その記録を木札にまとめて保管していたこと
 4. 紙が普及していなかったため、農民たちが日々の家計簿を木に記していたこと
- 問4 奈良時代、律令国家の体制が整う中で、中央政府が地方の実績や資源を把握するために各国に命じて作成させた、地域の自然、産物、伝説などを記録した報告書を何と称しますか。（2017年 岐阜公立入試 類似）
1. 風土記
 2. 日本書紀
 3. 万葉集
 4. 古事記
- 問5 東大寺の正倉院に代表される、三角形の木材を組み上げた校倉造の建築物には、当時の国際交流を裏付ける工芸品が多く収められている。これらの宝物が日本にもたらされた歴史的背景として、最も適切な説明を選べ。（2024年 神奈川県公立入試 類似）
1. 遣唐使の派遣により、シルクロードを経由して唐に集まった西アジアなどの文化が日本に伝わった。
 2. 勘合貿易の実施により、明の皇帝から贈られた美術品が日本の武家文化に影響を与えた。
 3. 南蛮貿易の進展により、ポルトガルやスペインの宣教師がキリスト教とともにヨーロッパの文物を持ち込んだ。
 4. 朝鮮通信使の来日により、儒教の経典や朝鮮半島の高度な製陶技術が日本各地に広まった。
- 問6 奈良時代、唐文化の影響を受けた天平文化が栄えた時期に、食糧不足を解消するための開墾を奨励する目的で制定された法令は何ですか。以前の「三世一身の法」では期限付きであった土地の所有を、新しく開墾した土地に限り永久に認めたものです。（2019年 高知公立入試 類似）
1. 墾田永年私財法
 2. 班田収授の法
 3. 公地公民の制
 4. 御成敗式目
- 問7 奈良時代末期に成立した日本最古の和歌集で、大伴家持が編纂に関わったとされる作品を次から選びなさい。（2023年 新潟県公立入試 類似）
1. 万葉集
 2. 古今和歌集
 3. 新古今和歌集
 4. 懷風藻
- 問8 奈良時代に編纂された書物のうち、中央政府の正史としてまとめられた『日本書紀』や『古事記』と比較した際の、『風土記』の特徴として適切な説明はどれですか。（2023年 静岡公立入試 類似）
1. 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。
 2. 天皇の系譜や国家の成り立ちを、神話や伝説を交えて年代順に体系化した。
 3. 律令制度に基づく税の徴収を目的として、各地の戸籍や土地の面積を詳細に記した。
 4. 万葉仮名を用いて、天皇から防人、農民まで幅広い階層の人々が詠んだ歌をまとめた。
- 問9 743年に「墾田永年私財法」が施行されたことにより、その後の日本の社会に現れた大きな変化として正しいものはどれか。（2024年 静岡公立入試 類似）
1. 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。
 2. 班田収授の法がより厳格に守られるようになり、農民の間の貧富の差が完全に解消された。
 3. 土地の私有化が進んだ結果、米で納める「租」の制度が廃止され、全ての税が貨幣で納められるようになった。
 4. 天皇による直接支配が全国の隅々まで行き渡り、武士という新しい階級が登場する余地がなくなった。
- 問10 奈良時代、人口の増加にともなって「班田収授法」で農民に分け与えるための公地が不足しました。この状況を解決するために743年に出された、新しく開墾した土地を永久に自分のものにするのを認めた法令は何ですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）
1. 墾田永年私財法
 2. 三世一身の法
 3. 公事方御定書
 4. 武家諸法度
- 問11 奈良時代、聖武天皇の時代を中心に栄えた文化について、遣唐使などの往来を通じて西アジアやペルシアなどの影響を強く受けた、国際色豊かな特色を持つ文化の名称として正しいものを選択してください。（2019年 岡山公立入試 類似）
1. 天平文化
 2. 国風文化
 3. 化政文化
 4. 飛鳥文化
- 問12 歴史書である『続日本紀』には、農民が苦勞して開墾した土地を、これからは自由に私財として所有することを認め、永久に国が取り上げないとする趣旨の内容が記されています。この法律が制定されるきっかけとなった当時の社会背景として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 奈良公立入試 類似）
1. 三世一身の法では、期限が来ると土地を返さなければならず、農民の開墾意欲が低下していたから。
 2. 公地公民の原則を強化し、すべての土地を天皇が直接管理する仕組みを完成させるため。
 3. 租・庸・調の重い負担に苦しむ農民に対して、口分田を均等に配分し直す必要があったから。
 4. 仏教の力によって国を護るため、寺院にのみ土地の永年私有を特別に許可したから。
- 問13 古代日本の国づくりの過程で整備された、刑罰に関する決まりである「律」と、政治の仕組みや人々の義務について定めた「令」から成る法体系について、そのモデルとなった国として正しいものはどれですか。（2015年 富山県公立入試 類似）
1. 唐
 2. 宋
 3. 元
 4. 清
- 問14 701年に制定され、刑法にあたる「律」と、行政法や民法にあたる「令」の両方が整備されたことで、日本が律令国家として完成したことを示す法典は何か答えなさい。（2019年 千葉県公立入試 類似）
1. 大宝律令
 2. 養老律令
 3. 十七条の憲法
 4. 御成敗式目

答え合わせ・解説

問1	答え 1 戸籍に登録された6歳以上の男女すべてに与えられ、その面積は性別や身分によって違いがあった。	口分田は6歳以上の男女に与えられましたが、例えば良民の男性は女性の1.5倍の面積を受け取るなど、性別や社会的な地位によって配分される広さが異なっていました。開墾した土地の私有化は、のちの「三世一身の法」や「墾田永年私財法」によって認められるようになりますが、口分田そのものは原則として一代限りの貸与であり、死後は国に返す必要がありました。
問2	答え 1 九州北部の沿岸警備を目的とし、主に東国の農民が3年の任期で派遣された。	白村江の戦いでの敗北後、大陸からの侵攻に備えるために九州北部の防衛体制が強化されました。防人はその中核を担いましたが、家族と離れて遠方へ赴く苦しみや生活の困窮は激しく、その様子は『万葉集』に収録された「防人歌」からも読み取ることができます。
問3	答え 1 律令国家が全国的な徴税体系を整え、地方の特産物を都に集約させていたこと	木簡は荷札としての役割を果たしており、そこには送り元の「国名・郡名」や、税の品目である「調」などの文字が記されています。これが都の宮殿跡から大量に見つかるということは、中央政府（律令国家）が全国の農民を戸籍で把握し、各地の特産物を組織的に都へ運ばせていた制度的な仕組みが、実際に機能していたことを裏付けています。
問4	答え 1 風土記	律令政府は地方を統治するにあたり、各国の地名の由来や土地の肥沃さ、産出される産物、さらには古くから伝わる伝承などを調査し、報告させる必要がありました。こうしてまとめられた地理書は「風土記」と呼ばれ、現在は出雲国（島根県）のものがほぼ完全な形で残っているほか、数カ国の内容が今日に伝わっています。
問5	答え 1 遣唐使の派遣により、シルクロードを経由して唐に集まった西アジアなどの文化が日本に伝わった。	奈良時代は遣唐使が頻りに派遣され、唐の優れた制度や文化が導入されました。当時の唐は国際色が豊かな帝国であり、中央アジアやペルシアなどの文化がシルクロードを通して流入していました。それらが日本に伝わった結果、正倉院にはペルシア風の意匠を凝らした工芸品などが残されており、「シルクロードの終着点」とも称されます。
問6	答え 1 墾田永年私財法	奈良時代の743年に制定されました。人口増加に伴う口分田の不足を解消するため、開墾した土地の永久私有を認めることで農民や貴族の開墾意欲を高めようとした。しかし、この法令によって「土地と人民はすべて国家のもの」とする律令制の基本原則である公地公民の制が崩れるきっかけとなりました。
問7	答え 1 万葉集	奈良時代を代表する文化遺産であり、約4,500首の歌が収められています。平安時代に編纂された初の勅撰和歌集である『古今和歌集』や、鎌倉時代の『新古今和歌集』と時代の区別をつけることが重要です。また、『懐風藻』は日本最古の「漢詩集」であり、和歌集である本作とは区別されます。
問8	答え 1 地方の国ごとに、土地の産物や地名の由来、古くから伝わる伝承などが記録された。	風土記は、中央から派遣された国司がその国の情報をとりまとめたものです。朝廷が各地域の資源や文化を把握しようとした目的が背景にあります。一方で、日本書紀や古事記は天皇中心の国家形成の正当性を説くための歴史書であり、記述の対象や目的が異なります。
問9	答え 1 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。	土地の私有が認められたことで、豊富な資金や労働力を動員できる有力な貴族や寺院がこぞって開墾を進めました。これが「初期荘園」の形成につながり、国家が直接土地と人民を支配する体制が徐々に形骸化していくことになりました。
問10	答え 1 墾田永年私財法	人口が増加したことで、それまでの班田収授法による公地の分配が困難になりました。政府は土地不足を解消するため、開墾を奨励する目的でこの法令を出し、土地の永久私有を認めました。これがきっかけとなり、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が拡大することになります。
問11	答え 1 天平文化	聖武天皇の時代には遣唐使が頻りに派遣され、唐の優れた制度や仏教とともに、シルクロードを経由して西アジアの意匠や技術が日本にもたらされました。この時期の文化は、当時の都である平城京を中心に展開され、仏教的・国際的な色合いを強く帯びているのが特徴です。
問12	答え 1 三世一身の法では、期限が来ると土地を返さなければならず、農民の開墾意欲が低下していたから。	723年に制定された三世一身の法は、新しく開墾した土地を三代（あるいは一代）に限り私有を認めるものでしたが、返還期限が近づくと農民が開墾を放棄し、土地が再び荒廃するという問題が起きました。食糧不足を解消するためにさらなる開墾を促す必要があった政府は、743年に土地の永年私有を認める方針へと転換しました。この政策変更は、国家が土地を直接支配する仕組みから、私有地を認める仕組みへの大きな転換点となりました。
問13	答え 1 唐	古代の日本は、中国の高度な統治システムを取り入れるために遣隋使や遣唐使を派遣しました。特に唐の法律は完成度が高く、これを手本として日本独自の状況に合わせた律令が整備されました。これにより、天皇を中心とした組織的な国家運営が可能になりました。
問14	答え 1 大宝律令	文武天皇の時代である701年に、藤原不比等らによって編纂されました。これにより、天皇を中心とする中央集権的な統治制度が法的に整い、日本は律令国家としての形を完成させました。同時期の年表では、大化の改新から続く国家形成の最終段階として位置づけられています。